

JSP-45W ダイヤフラム&補剛材の設計

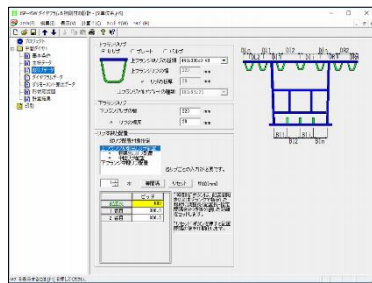
概要

JSP-45Wは、ダイヤフラムの設計については、鋼道路橋設計便覧(昭和55年8月改訂版)および鋼構造の補剛設計(小松定夫編)に基づき、①間隔の照査、②剛性の照査、③応力度の照査の詳細設計を行います。また、補剛材の設計については、道路橋示方書・同解説Ⅰ共通編、Ⅱ鋼橋編(平成14年3月)および名古屋公社の設計基準に基づき、①断面の検討、②応力度の照査、③溶接部の検討等の詳細設計を行います。

特長

- ① 中間ダイヤフラム
 - ◆箱桁の線形は直線桁/曲線桁から選択できます。
 - ◆箱桁の構造は合成桁/非合成桁/鋼床版桁から選択できます。
 - ◆ダイヤフラム形状は充腹板方式&ラーメン方式/対傾構方式から選択できます。
※充腹板方式とラーメン方式の区別は、内部計算にて決定します。
 - ◆上フランジリブ形状はUリブ/プレート/バルブプレートから選択できます。
- ② 支点上ダイヤフラム
 - ◆支承タイプは1支承/2支承から選択できます。
 - ◆補剛材の断面決定は自動/指定から選択できます。
- ③ 支点上垂直補剛材
 - ◆設計基準は建設省/名古屋高速道路公社から選択できます。
 - ◆補剛材の断面決定は自動/指定から選択できます。
- ④ 中間補剛材、水平補剛材
 - ◆補剛材の断面決定は自動/指定から選択できます。
 - ◆補剛材の断面決定方法が自動の場合、断面幅のまるめ値は5mm/10mmから選択できます(中間補剛材の計算)。
- ⑤ 単位系はSI単位系および重力単位系に対応しています。

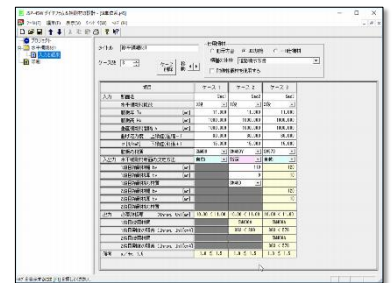
画面例



中間ダイヤフラム/縦リブデータ



支点上ダイヤフラム/計算結果



水平補剛材1/入力と結果

制限

支点上補剛材とダイヤフラム(主桁腹板)の材質が異なる場合の許容応力度の考え方は以下の通りとします。

- ① 曲げと圧縮の照査 → 補剛材の材質
- ② 圧縮のみの照査 → 許容応力度の低い材質
- ③ 支圧応力度の照査 → ”

ラーメン方式の補正係数 β の算出は、土木技術36巻3号(P.101)開口部を有する鋼箱桁橋中間ダイヤフラムの剛度補正係数より求めます。

動作環境

Windows 8.1/10

Microsoft[®]. Windows[®]は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

販売価格

使用許諾料	400,000 円	(税込価格: 440,000 円)
追加1ライセンス料	80,000 円	(税込価格: 88,000 円)